

特 殊 報

岡病防第 29 号

平成25年 1月11日

各関係機関長 殿

岡山県病害虫防除所長

病害虫発生予察情報について

病害虫発生予察特殊報第 6号を下記のとおり発表したので送付します。

平成24年度病害虫発生予察特殊報第 6号

平成25年 1月11日

岡 山 県

- 1 病害虫名：イチジクモザイク病
- 2 病原ウイルス名：Fig mosaic virus
- 3 作物名：イチジク（品種 ビオレ・ドーフィン）
- 4 発生面積：1a
- 5 特殊報の内容：岡山県での初発生を確認
- 6 初発生確認月日：平成24年 6月25日
- 7 初発生場所：岡山県南部
- 8 発生の経緯：平成24年 6月に岡山県南部のイチジク苗で葉の退緑・奇形症状が確認された。岡山県農林水産総合センター農業研究所においてRT-PCR法によるウイルス検定を行ったところ、イチジクモザイク病の病原である fig mosaic virus が検出されたことから、イチジクモザイク病であると確認した。イチジクモザイク病は国内では平成23年 4月に島根県で初めて確認され、平成25年 1月現在、福岡県でも発生が報告されている。
- 9 病徴：葉では葉脈に沿った激しい退緑・奇形症状やモザイク症状が現れる（図1、2）。枝では節間の短縮や未着果枝の発生が、また果実では斑紋が見られることがある。なお、症状は樹全体で見られる場合もあれば、主枝単位で見られる場合もある。
- 10 病原ウイルス及び発生生態について：本ウイルスは、感染した親株を用いた挿し木等による栄養繁殖によって伝染し、接触伝染や土壌伝染はしないと考えられている。なお、2011年 4月11日の東京大学 農学生命科学研究科のプレスリリース（アドレス <http://www.a.u-tokyo.ac.jp/topics/2011/20110411-1.html#top>）及びカリフォルニア大学の UC Pest Management Guidelines（アドレス <http://www.ipm.ucdavis.edu/PMG/r261100611.html>）によると、fig mosaic virusの性状に関してはほとんど情報がなく、その宿主範囲や伝搬様式も明らかになっていない。しかしながら、本病害の発生にはイチジクに寄生するイチジクモンサビダニによる食害との関連が認められることから、本病原体はイチジクモンサビダニにより伝搬される可能性が強く示唆されている。
- 11 防除対策および参考事項：
 - (1) 病徴が見られない苗を使用する。
 - (2) 病徴が見られる樹の枝を挿し木や接ぎ木に用いない。
 - (3) イチジクモンサビダニの薬剤防除を行う（表1）。

表1 イチジクモンサビダニ適用の主な防除薬剤（平成25年1月現在）

薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数
ピラニカ水和剤	2,000倍	収穫7日前まで	1回以内
サンマイト水和剤	1,000～1,500倍	収穫7日前まで	1回以内
ダニトロンフロアブル	2,000倍	収穫3日まで	1回以内



図1 品種 ビオレ・ドーフィンにみられたモザイク症状



図2 葉脈に沿った著しい退色と奇形(写真提供 島根県病害虫防除所)

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。

アドレスは、http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=239